

卒業生の皆さん、ご卒業されますこと、心よりお祝い申し上げます。

皆さんが、今日の卒業式を迎えるまでにはさまざまな困難があったのではないかと思います。それを乗り越えてのご卒業に敬意を表します。

特に今年は、コロナ感染により社会の構造そのものが一変してしまいました。今回の卒業式もこのような形で行うわけですが、逆に皆さんにとって忘れられない卒業式だと思います。

私は、このような混沌とした生活に直面した際、特に今までと違った生活になってしまったときに、「節から芽を出せ」という言葉を思い出し肝に銘じています。まさに、今がその時期に直面しております。経済・生活・コロナ感染と節目を迎えている今、新たな芽出しをしてほしいと思います。

また、皆さんのご努力もさることながら、保護者の皆様方におかれましても、今日を迎えられるまでのご労苦は、いかばかりであられたかを拝察申し上げ、心より御慶び申し上げます。

さて、本学は公立となって4年目を迎えております。

これから社会に羽ばたく諸君にとって公立大学卒業生として世間の人たちは見えています。どうか、名に恥じないよう社会人として活躍することを期待します。

これから、卒業されていく門出の皆さんに、なぜ、このような厳しい状況を述べるのかと申しますと、それは、厳しい社会の中でも、皆さんは立派に社会に貢献してゆけると確信しているからです。

それは、長い歴史ある本学の伝統を引き継ぎ、建学の理念に基づいた教育を受け、生活力、いわゆる長野大学力を身につけているからです。

これまでを振り返ってみてどうでしょう。

おそらく途中でくじけそうになったこともあったかと思いますが。周囲の友人たちとの価値観の共有ができたこととできなかったこと、家族との意見の違いや、希望にこたえようとする努力との葛藤、当然大学内での人間関係など、私自身が考える以上に努力した結果が、今日であると思います。

私たちが社会で生きるためには「形式」も大切な部分です。本日の卒業証書は皆さんにとって、「よかったな」と今の感動以上に感じることもあると確信します。」

それから、これからは社会人として、もっと理不尽な場面に遭遇することが多々あるかと思いますが。

早速、仕事に就くわけですが、最初に選択した仕事は大切にしてください。どの分野で働くにしても最低5年を目標にしてほしいです。

少し遠くを見ながら、日々の一步一步につなげていき、気が付いたら年数が過ぎていたくらいのペースで、仕事になじんでください。

きついときは、いつでも大学にきて教職員の顔を見て話をしに来てください。

いつでも受け入れてくれますので遠慮なく出かけてください。

最後に一つだけお願いがあります。それは、今日まで、一心に皆さんの成長を願ってこられたご両親・ご親族やお世話になった方々に一言御礼を申し上げてください。

それでは、最後となりましたが卒業生の皆さんのご健康とご活躍を祈念申し上げます。祝辞といたします。本日は誠におめでとうございます。

2020年9月10日 中村 英三